

With

利用者と共に

職員と共に

地域と共に

高森荘からの情報発信 ウィズ

vol.50

2023.12/1



TAKAMORI

発行所 障害者支援施設 高森荘

〒399-3101 長野県下伊那郡高森町山吹4473-1

TEL.0265-35-6811 FAX.0265-35-6812

E-mail: f0720@amber.plala.or.jp

発行者 高森荘施設長 入野友宏



ある日の高森荘

「ホッホッハッハッハ! イエ〜イ!!」
これです。これ、これ!

新型コロナウイルス対策のため令和2年2月以来外部の方との交流を控えてきましたが、3年7ヶ月ぶりに「笑いヨガ盛り上げ隊」の皆さまをお招きし、利用者さん職員の全員が「笑いヨガ」でお腹の底から大声で笑い、「オカリナ演奏」のすばらしい音色に心から感動し、「感動=感じて動く」を体感できる時間となりました。

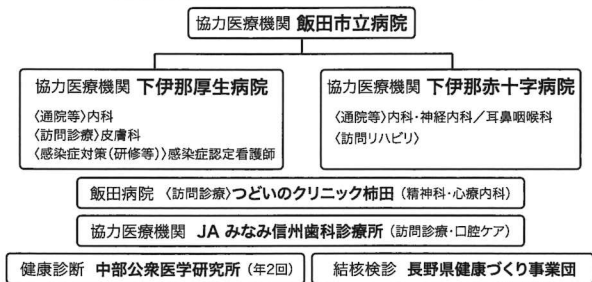
新型コロナをはじめ感染症との戦いはまだまだ続きますが、その中でどうすれば快適な生活を送っていただけるか試行錯誤の日々です。

高森荘医療サービス

長きにわたり、嘱託医を務めていただいた藤が丘内科の後藤晃先生が令和5年3月末をもって退任されました。後藤先生には開所以来40年、障害福祉への深いご理解のもと利用者様の健康維持にご尽力いただきました。心より感謝するとともに、ご冥福をお祈りいたします。

今後も各病院のご協力をいただきながら、利用者様が健康で安心して生活できる環境を提供していけたらと考えています。

高森荘 医療サービス (令和5年4月以降)



消防団視察



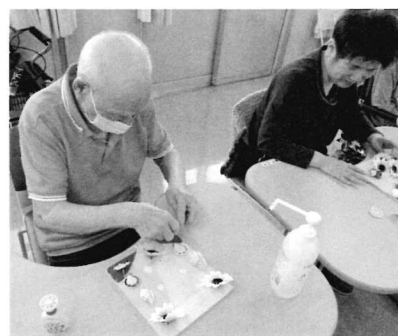
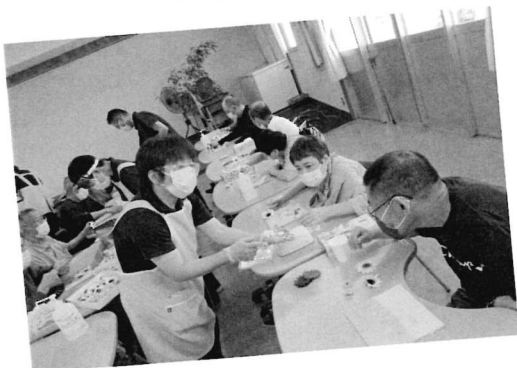
6月17日、高森町消防団第3分団の視察がありました。この数年は新型コロナウイルス感染症対策のため見送られてきましたが、久しぶりに行うことができました。

身体が不自由な方を抱えた当施設は、有事の際には地元の皆様のご協力が欠かせません。特に夜間は職員2名体制のため、消防団の皆様が高森荘の現状を知っていただくこの機会はとても重要な事だと考えています。

当日は施設内外を見ていただき、入所利用者様の状況、災害時の避難誘導についてご理解をいただくことができました。

育成会交流会代替行事

8月2日、育成会交流会代替行事として、「自分だけのフォトフレームを作成しよう」と題し、写真立ての作成を行いました。あらかじめ準備された木枠に、ボンドで花や貝殻、リボンなど思い思いの装飾品を貼り付けていきました。仕上がりはまさに千差万別で、シンプルなものあれば、賑やかなものもあり、自分だけのオリジナルのフォトフレームを作ることができました。作成後は、全員で記念撮影をし、美味しいおやつを頂きました。笑顔あふれる楽しい1日となりました。



アルプスサーモン

10月25日、高森町商工会名物料理研究委員会の皆さんが、アルプスサーモンを使った料理を届け下さいました。

今年は西京焼きと、アルプスサーモンのそぼろが入った厚焼き玉子をいただきました。女性の利用者さんが西京焼きを残していたのでどうしたのかお聞きすると、「美味しい物は最後に残しておくんな」とニコニコ話してくれました。皆さん美味しいと喜ばれていました。



秋行事

今年の秋行事は、「呼び込もう 秋の運(うん)転がし」を企画しました。運試しということで前半は、目が揃ったら勝ちというルールで、チームに分かれてサイコロゲームを行いました。普段、身体を動かすことが少ない方も車イスから起き上がって転がす姿が見られました。決勝戦では、サイコロの目を職員の顔にして、施設長の顔が揃って勝負が決まりました。後半は、松川町出身の演歌歌手 藤和也様をゲストで呼びびして歌謡ショーを行いました。皆さんの知っている



曲や地元の歌を歌っていたとき、笑顔で手拍子をしたり一緒に歌ったり楽しみました。歌が好きな方が多いので目の前で生の歌を聴けて「良かった！また聴きたいなあ」と皆さんとても喜んでいました。



身体拘束研修会

高森荘では毎年1回身体拘束についての研修会を行っています。こういったことが身体拘束となるのか、日々の支援の中でどういう事に気をつけるか職員で話し合いました。実際にベッドでの4点柵、ベルトを使用したの拘束も体験してもらいました。職員自らが体験することで利用者様がどのように感じられているかを知ってもらい、日々の支援を見直すきっかけにしたいと考えたからです。職員からは良い体験をすることが出来たとの声もあり有意義な研修会となりました。



生産活動

生産活動では、5月からコロナ対策は緩和されましたが、日々情報共有をしながら活動しています。

収入については、仕事量が少なくなっているお取引先様もあり、全体の収入額は減少となりました。

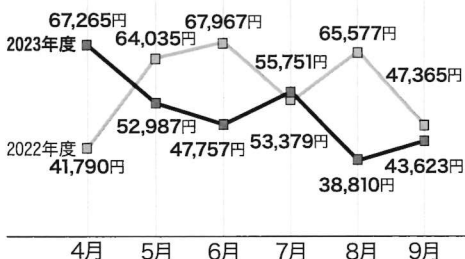
そんな中利用者様の手が空くことがないよう週単位で作業を割り振り、今までしたことのない作業も習得するべく練習頂いております。また、余暇活動としてビデオ鑑賞、クロスワード等を実施しております。

下半期は寒さが厳しくなる分、利用者様の体調管理に注意を払い生産活動を進めていきたいと思っております。

生産活動の現状報告(上半期)

～前年度との比較～

作業収入



2023年 6月~11月 行事

紙面の写真・氏名については、利用者、ご家族、職員の同意を得て掲載しております。



530運動



水害移送訓練



育成会交流会 代替行事



秋行事



夏季 火災避難訓練



地震総合防災訓練

5/31 530運動

6/13・16 水害移送訓練

7/31 夏季 火災避難訓練

8/2 育成会交流会 代替行事

「自分だけの
フォトフレームを作成しよう」

10/2 地震総合防災訓練

11/8 秋行事 「呼び込もう 秋の運(うん)転がし」

利用者作品

努力さえしていれば

ドラマを見ていてふと思う

努力さえしていれば

頑張っただけでいい

誰かがその姿を見ていてくれて

良い方向に導いてくれるのではないかと…

ドラマでは俳優・女優が

努力をして演技をしている

その裏には、脚本家・ドラマの監督がいる

演者は努力をした末に

それらの人々に承認を得て

その結果

その作品が世の中に出て

私達はそれを見ることが出来る

それは人に認めてもらえるということ

つまり「努力さえしていれば」

誰かが見ていてくれて、誰かが認めてくれて

良い方向に持って行ってってくれるのでは…

そんな気がしてくる

竹村 修

編集後記

平成13年4月に

第1号が発行され、

現在年2回発行し

ている広報誌

『with』ですが、今

号で50号を迎える

ことができました。

これまで利用者

様の生活の様子、障

害福祉をとりまく

制度改正等、様々な

出来事をお伝えし

てきました。ここ数

年は、新型コロナに

より施設での生活

は大きく変化し、

『with』の誌面も少

し寂しく感じた時

期もありました。

今後も関係機関

をはじめとし、日頃

お世話になっている

地域の方々、保護者

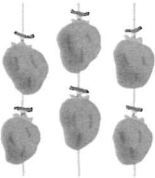
の皆様が高森荘の

様子を知っていただ

けりよう誌面作り

に取り組んでいきたく

と思います。



● 11月13日～28日
実習・研修の受け入れ
飯田短期大学 介護実習2名